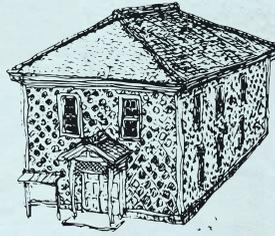


演説館



体育研究所開設50年に際して

体育研究所所長 う え だ ふ み お 植田史生

体育研究所が日吉に誕生して、半世紀になります。本研究所は、1961（昭和36）年に各学部に分散所属していた体育担当専任教員を中心に、20名の専任所員をもって開設されました。その後、1975（昭和50）年には、協生館の位置する陸上競技場と旧屋外プールの間に建設され、慶應義塾創立150年記念事業により現在のスポーツ棟「2008（平成20）年に完成」に移転しました。

1949（昭和24）年には新制大学発足にあたり、大学設置基準により保健体育科目が設置されました。講義科目として体育理論、保健衛生が各1単位、体育実技は基本体育、選択種目体育が各1単位の計4単位の必修科目として、翌1950（昭和25）年から開始されました。基本体育は、球技・武道・体操、陸上・水泳（女子はダンス・水泳）を1年次に行いました。選択種目体育は、体育会各部の協力のもと、夏・冬の休暇中に10日間集中して行われました。この時、泳げない学生は水泳を履修し、「塾生皆泳」のスローガンのもと50メートル泳ぐことを目標に

しました。

1992（平成4）年まで必修科目であった体育は、教養教育再編のなか1993（平成5）年から選択科目になりました。必修時代の基本体育・選択種目体育をウィークリー種目・シーズン種目と変更し、球技・武道・フィットネス・ニュースポーツ・野外等の45種目の中から選択できるようにしました。義塾の伝統と精神を基礎にして、授業のみならず課外活動としてのスポーツ振興（スポーツイベントや施設開放等）は重要な教育局面と捉えています。体育・スポーツ実践の場を作り、塾生が幅広く運動を習慣化し、身近なものにする「行動力のある塾生を育成する」ことを目標にするとともに、実践的な研究活動が「慶應義塾と塾生」、「社会」へ還元できるよう努力しています。将来に向けて、運動やトレーニングによって塾生自身の健康・体力の維持・増進をはかり、感動体験と基本的な知識・理論習得を基礎とした教養教育が重要であると考え、スポーツのできるキャンパスづくりを推進しています。

福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。